

オサバグサ；日本では希少な植物で、ものの本には「針葉樹林帯」の下草に生えると言われています。ケシ科の植物で、この山塊では沢や、谷筋の標高700～900メートル付近。そして落葉樹の下緑帯に群落をつくり、固体群の生育もよく数もたくさん存在します。葉の形はシダによく似ています。ただ、普通の登山道を歩いては見つからない植物です。ずっと茎が伸びて対になって、下向きに数個の白い笠の形をした白い花が咲きます。その容姿はとてもエレガントです

<ケシ科>



ミヤマシオガマ；カタクリとミヤマシオガマ、この取り合わせが面白い。カタンコが終わり、6月中旬その場所に此花が咲きます。何が不思議だと思いますか。カタクリは下界の野山に普通に咲きます。ミヤマシオガマは亜高山帯に咲く植物です。そんな山塊がここら辺にあるのです。濃い紅色の花が鼓群を作り山の斜面を埋めます。残念ながらここには道はないのです。一度、その群落を見てみる価値のある花の一つと言えるでしょう。

<ゴマノハグサ科>

